

古代紫プロジェクト:幻の染料をよみがえらせる

= 研究概要 =

古代紫は建て染め染料の一種で古代ギリシャ・ローマ時代には王侯貴族のみしか用いることができない染料であった。悪鬼貝科に属するアカニシほか何種類かの貝のパープル腺からこの染料を得るが、貝自体が捕獲できなくなりほとんど忘れられた存在となってしまった。この染料を現代社会によみがえらせたい、これがこのプロジェクトの目指すところである。

この目的のために古代紫染料の合成法を検索し改良を行った。またこの染料は染色の際に藍化(青変)が起こってしまう。このため本来の赤紫色に染めることは困難であったが、藍化を起こさない染色法を開発した。

現在、皮革材料への建て染めは行われていないが、皮革への染色法を開発し利用可能にした。



図1 古代紫を採取するためにパープル腺を取ったあとのアカニシ貝の殻

※ 古代紫は別名をチリアンパープル、貝紫、帝王紫とも言う、化学名は6,6'-ジプロモインジゴである。

= 用途 =

■布、糸、紙、皮革といった
各種作品素材への染色。



図2 古代紫で染めた糸

= 研究担当者(澤田 忠信)紹介 =

「明星大学・古代紫プロジェクト」代表

専門分野:有機化学、多環芳香族化合物の合成と物性